

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172300121		
法人名	神恵内村		
事業所名	神恵内村認知症対応型共同生活介護事業所高齢者グループホームかもめの家		
所在地	古宇郡神恵内村大字神恵内村10番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigvosvoCd=0172300121-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=0172300121-00&ServiceCd=320)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401		
訪問調査日	令和2年12月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

■地元の食材、施設の裏山等から採った山菜等を使い、季節の食を中心とした食事を提供しています。

■年中行事には、その風習にちなんだ食事の提供を心がけています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内より川を挟んだ対岸に位置し、保育園や漁業会館と並んで村立の診療所があり、その二階部分に1ユニット9人の高齢者が生活をしている。建物は村の中心部に近く、村役場や商店、漁港も徒歩圏内であり診療所の2階という事も含め、静かで緑のあふれた環境であり、生活を共にするには適した地域に立地している。開設は2000年の4月と介護保険法の施行と同時に村営の事業所としてオープンし20年を経過しており、村で唯一の認知症対応型住居で、広域連合の周辺地域からも広く認識されている。当事業所は村営で開設された経緯があり、地域住民からの信頼度が高く、9人という少数の受け入れであり介護員との距離感もなく、ごく自然に生活が営まれている。毎日の食事にも力を入れており、季節の行事食を提供したり、春には利用者と一緒に採ったたけのこやふきのなどの山菜、夏から秋には菜園でとれた野菜を使ったメニューを取り入れ、また旬の魚料理を作ったりと季節感のある食事の提供に努めている。日常的に周辺を散歩したり、買い物や山菜取り、図書館などに出かける等、利用者が地域に溶け込み、明るく安心して過ごすことができるホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、介護理念を黙読し、実践につなげているように努力しています。	理念は「信頼」「安心」「交流」と3つの柱によって構成され、毎朝勤務に入る前に職員は各自に黙読し実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年祭り等に参加したり、民謡クラブ等の方々へ慰問していただき、交流していたのですが、今年はコロナウイルスのため交流ができていない状況です。	事業所の周辺にある保育園や図書館などに働きかけ、園児との交流を続けており、地域の民謡ボランティアの来訪なども行われ、また近所の散策での挨拶も利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談を受けた際にはアドバイスをしていきたいと思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しております。利用者の状況報告、行事について施設の老朽化に伴う不具合等、質疑応答し意見交換を行っています。	運営推進会議は家族代表や村や医療機関、法人本部等の参加で定期開催されている。議案には事故報告や行事の内容も示され、身体拘束適正化委員会も報告され、また、議事録は家族に送付されるなどサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村役場が事業主であるため連携はとれています。	経営主体が村であり、あらゆる事項に村の許可が不可欠で、情報交換を含め密接に連携して運営を進めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階は診療所との共同玄関であるため、防犯上夜間に鍵をかけています。	身体拘束等適正化委員会は運営推進会議の中で行われており、2ヶ月に一度現状の介護の適正について検証している。討議内容は全職員に周知し、拘束も抑制も無縁な介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修が近隣であった際には参加していますが、今年はコロナウイルスのため、研修等も少なくなかなか参加できていない状況です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度が必要とされる利用者はいません。今後、制度的な知識を理解するため勉強して行きたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者のご家族の不安等に適切なアドバイスが出来る様、また納得が得られる様に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、コロナウイルスのため面会は出来ませんが、電話相談や意見要望があった際には遠慮なく話してもらえる様対応しています。利用者が、不満を訴えた際は少しでも解消出来る様職員と話し合い改善する努力をしています。	家族の来訪時に意見や要望を聞くと共に、遠くで来訪が困難な家族については電話等で聞き取っている。利用者の意見は、利用者ごとの担当職員が日々の暮らしの中で把握するように努め、得られた意見、要望には迅速に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は出来るだけ聞くよう心掛けています。	職員会議は全員参加で行われ、少人数の事業所であり長年の勤務者も多くあり、会議以外でも毎日の申し送りなど、日々忌憚のない意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力していると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は出来るだけ参加したいと思っていますが、外部研修が少なく、又今年はコロナウイルスのためあまり参加できない状況です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内の、他の施設で研修等があった際には参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	本人とコミュニケーションを取り、困っている事、不安な事は聞き、又職員間で情報を交換し信頼関係を築く様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事、要望があれば聞いています。又、本人に合わせた対応についても話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族に本人の現状を伝え理解して頂き、ご家族の意見等を聞き支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、利用者が出来る事は手伝って頂いています。昔ながらの料理は教えて頂いたり作って頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナウイルスのため面会は出来ませんが、家族が来られた際や電話等があった際は、日々の出来事や気付きの情報を提供して、本人を支えるためお互い協力し合い、利用者がよりよく過ごせる様支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナウイルスのため面会や外出は出来ていません。	例年は、継続的な交流が保てるよう、家族や知人の来訪時には、自室でゆっくりできる様努め、また家族との墓参りなど、縁のある関係や場所との繋がり等の生活習慣を尊重し、利用者に合わせて支援となっている。現在はコロナ禍の為、外出、面会は自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握しています。各居室に、訪室し会話を楽しまれております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設に移動された際は、顔を見る機会があるので関わる事ができます。相談等があれば対応したいと思っております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話を通し、思いや希望を見出しています。又、言葉だけではなく表情や様子からも汲み取り、意向に沿う様に把握し努めております。	利用者ごとに担当が決まっており、日々思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、家族や関係者と協力して情報を得るように努め、また表情や仕草から本人本位の介護になるよう取り組んでいる。	本人が最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階での希望・意向に関して、定期的に具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を、本人と家族から教えて頂き1日の過ごし方や趣味等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況や状態を確認し、変化があればその都度口答で伝えたり、記録を残し、職員で情報を共有しケアに繋げています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、担当職員を中心にモニタリングを行い、他職員と話し合い気付いた事や情報をもとに、介護方法や方向性について話し合っています。	利用者一人ひとりの担当者と共にケアマネが6カ月ごとのモニタリングと計画作成を行い、利用者の様子や家族の希望を反映した介護記録となっている。病変等には即時に対応し、現状に合った介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子や、排泄、食事、水分等を記録しています。介護計画見直しの際も、記録と職員の情報を踏まえ作成します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に応じて通院、外出等柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物等、可能な限り出掛けていましたが、今年はコロナウイルスのため出掛けられていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関を確保しており、月1回往診、休診の際は協力施設の医師に連絡をし、指示を受けています。受診には家族、又は職員が同行し状態を把握しています。又、週1回口腔ケアとして歯科診療所に往診に来て頂いていましたが、コロナウイルス感染防止のため口腔ケアは休んでいます。	事業所の1階が診療所であり、訪問看護がない地域だが特例的に週2回看護師の訪問をお願いしている。診療所の休診時には協力医療機関からの指示を受け、適切な医療を受けられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化に注意し、早朝発見に取り組んでいます。変化に気付いた時は、病院の看護師に電話等で相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供しており関係作りを行っています。回復状況等を、医療機関や家族に確認しながら情報交換を行っており、退院後の支援につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	重度化や週末期については、その時点で家族を交えて話し合いを行い、できるだけ意向に沿うようにしています。	重度化には指針を作成しているが、現状では医療的な体制が不足しており、十分な看取り体制は出来ていない。利用者の希望により、出来る範囲で意向に沿って支援しており、家族からは感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の、応急処置マニュアルがあり職員に周知しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い意見等を頂き活用しています。近隣の施設にも、協力要請をして承諾を頂いています。	年2回の火災想定避難訓練を行っており、また村の防災無線があり、役場や近隣の住民の連絡番号は把握している。利用者全員の防災頭巾を作り居室に置くなど工夫し、備蓄等は村で用意し、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その人に合った言葉かけを心掛けています。居室に入る際は、心掛けをして了解を得る様にしています。	一人ひとりの個性に合わせ対応を考えており、礼節は接遇の基本とし、声掛けや接する態度に注意し、プライバシーを損ねることのないように支援に臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から、本人の思いを引き出すような声掛けをしています。誕生日メニューを決める際等、本人の希望を聞き反映しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっていますが、状況に合わせて自分のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や外出等の身だしなみに配慮し、毛染めは希望がある時に職員が行っています。散髪は、訪問サービスを利用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの能力に応じて、できる事をし て頂いており、職員と一緒に going しています。職 員と一緒に食事をし、好きな物や季節の食材 の事等を話し、メニューに取り入れておりま す。	コロナ禍もあり外出の機会が少ないため、季節感 や旬の食材を意識し、利用者にとってより良い食事 となるよう改善している。またお手伝いもお願いし、 職員も同席同食しながら食事を楽しめるように支援 している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	個々の食事摂取量、水分量は個人日誌に記 録しており、本人の嗜好を取り入れながら野菜 中心で栄養が偏らない様、バランスの良い献 立を考えながら作成しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	自分で出来る方は声掛けや見守りをし、出来 ない方は、食事後口腔内ケアやチェックをし、 義歯の洗浄、衛生を行っています。夜間は、義 歯洗浄剤につけ毎食後の歯磨きも実施してい ます。週1回歯科衛生士が、口腔ケアを実施し ていますが、現在はコロナウイルス感染防止 のため休んでいます。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大切にし、 紙パンツ、パット等本人に合わせ検討していま す。尿意、便意の訴えがない利用者でも出来 るだけトイレで排泄が出来る様支援していま す。	「排泄はトイレで行う」が職員の一一致した介護姿勢 であり、時間での誘導や仕草を共有して、タイミ ングよく誘導するなど、自然な排泄になるよう取り組 んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる	自然に排便が出来る様、繊維質が多い食事を 心掛け、こまめに水分補給をして頂き軽い運動 も取り入れています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週2回ではありませんが、希望 があれば毎日入る事ができます。	入浴は週2回が基本だが、夏場の暑い時期や利用 者の希望があれば、毎日入浴支援を行っている。 また浴室は古く段差もあるが、福祉用具の活用や 職員の工夫や努力で、安心できる入浴となってい る。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援 している	本人のペースに合わせて居室や食堂で休んで頂 き、夜は居室を好みの明るさにして安心して寝 られるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に処方箋を添付し、薬の効 果、用量等把握できる様にしています。服薬の 確認もきちんと行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年は、たちかま作りを利用者と共に調理した り、昔ながらの料理と一緒に調理し食していま す。10時のお茶の時間には、好みの飲み物を 毎日聞き各利用者の好きな物を提供していま す。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年、コロナウイルス感染防止のため出掛けられていない状況です。	気候や温度、天候と相談しながら外出支援に取り組んでおり、ご近所の散歩で地域の人と挨拶を交わしたり、近隣の図書館や園児たちが遊ぶ保育所等に出掛け、閉じこもらない介護を支援しているが、現在はコロナウイルス感染防止により、自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が持ちたいと希望の方は、家族との話し合いのもと自己管理して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自由に電話を掛けられる様にしています。家族と手紙のやり取りをしている利用者もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度に注意し、濡れタオルやペットボトルに水を入れて加湿器代わりにしたり工夫しています。又、花をベランダや食堂に飾り匂いや視覚で季節を感じて頂ける様工夫しています。	事業所内の清掃が行き届いており、廊下には椅子やティーテーブル、図書などを設置し、思い思いの場所で寛げるよう工夫されている。また、設備が古いこともあるが、トイレなどの空間もプライバシーが守れるよう努め、快適に暮らせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファやイス置き、利用者同士が腰をかけながら会話したり、気分転換ができるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品を持ってきて頂いたり、テレビ等を置いて居心地良く過ごせる様工夫しています。	居室はゆったりとしており、利用者が使い慣れた馴染みの家具を配置し、また仏壇のお供えの支援や、居室の冷蔵庫の管理なども行い、安全に過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間でも迷わず、トイレに行ける様廊下の照明をつけたままで、居室入り口には表札やぬいぐるみ等をつるし目印にしています。		